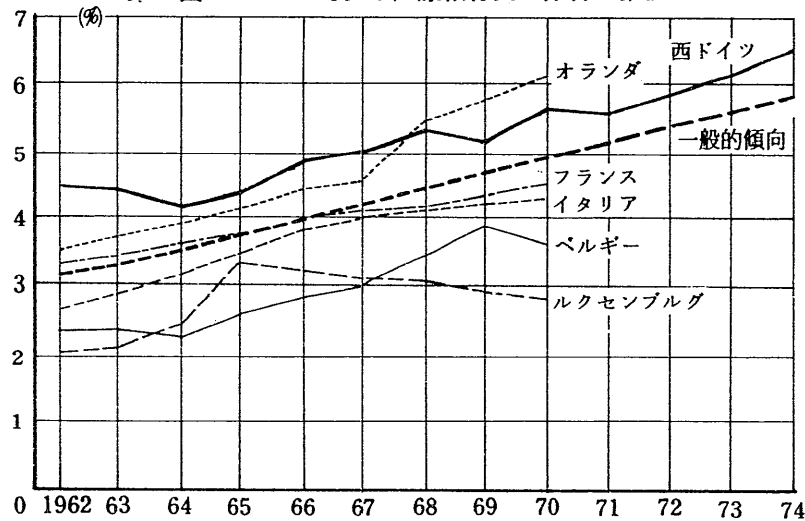


分析と将来予測を行ったものである。とくに西ドイツの出席者から、バイエルンにおいては古い病院の約35%は50年以上経った病院であり、最近10年間にできた病院は約42%である、建築費用があがり、1960年に7~8万マルクであった1病床当たり費用は、1965年には11万マルクになり、さらに1974年には22~25万マルクに上昇しており、これからの古い病院の改増築には相当な費用がかかるため、近代医療に即応した病院医療を行う体制の整備にはこれらの古い病院をどうしていくかが大きな問題である、との問題提起がなされた。このようにこのシンポジウムでは、医療制度の費用、なかでも病院整備のための費用や医療従事者に対する人件費の上昇に多くの関心がよせられ、これらの問題をめぐって多くの意見や経験が述べられた。

第1図 GNPに対する医療給付費の割合の推移



(資料) Jahrbuch der Sozialstatistik 1972, S. 314・Sozialbudget 1974.
eurostat, Volkswirtschaftliche Gesamtrechnungen 1960-1973, 1・1974.

Die Kostenexplosion im Gesundheitswesen, Arbeit und Sozialpolitik, 5/1975, S.167 - 171.

(石本忠義 健保連)

鉄道員の制度による 失業と疾病の受給者

(アメリカ)

1973—74年に、鉄道失業保険制度では、104,200人の労働者が失業給付と疾病給付を受給した。この受給者数は1947—48年に最初の受給者が現われて以来、最も少ない受給者数になっている。なお、上に示した受給者では、45,700人が疾病給付の受給者で、63,400人が失業給付の受給者になっており、4,900人は双方の給付を受給していた。

1973—74年の失業給付では、上述した45,700人の受給者は前年の受給者より29%減少しており、1944—45年以来の最低を記録していた。受給状況では、平均受給期間は61日間で、これは前年より11日間短い。また、受給者1人当たりの平均支給額は100ドル減少し、502ドルになっていた。なお、失業の状況について付言すれば、1973—74年の失業者は月によって異なり、1973年7月の年度初めは12,200人で、1974年1月は16,000人の最高を記録し、その後次第に減少して、同年6月には7,500人となり、これは第2次大戦後の最低であった。また、受給者1人当たりの平均支給額では、平均が502ドルで、正常な給付だけ受給した最低の平均は417ドル、正常な給付と55歳以上の高齢者を対象とする補足給付を受給した最高の平均は2,406ドルで、受給した平均日数は前者が51日、後者が271日であった。

受給者と勤続期間では、長期勤続の受給者は比較的になく、勤続15年以上の受給者は全受給者の38%であった。失業の理由をみれば、レイオフがかなり高い比率を占めており(全受給者の39%)、パートタイマーなどがこれに次いでいる(30%)。職種では、列車とエンジン部門の職種が多かった。制動手、

手荷物乗務員、転轍手、事務員、その他の事務職員は比較的になかった。

鉄道員の疾病給付は失業保険制度で支給されるが、前述した63,400人の受給者は、前年より5%減少していた。前にも示したように、この受給者数は制度の発足以来最低で、総額2,810万ドルの給付が支払われた。受給者の平均受給日数は77日間で、給付の平均は627ドルであった。支給額では、1959年の鉄道失業保険法の改正により、1日当りの支給率は賃金日額の60%（最高を制限される）とされ、1968年以後、最高は日額12.70ドルであった。しかし、この最高は不適切で、その後引上げられ、1974年には、平均額が12.69ドルであった。

給付には正常な給付と補足的な給付があり、前者は通常の受給者に支給され、後者は勤続10—15年の者に13週間、15年以上の者に26週間を追加して支払われる。これら2種類の給付は、色いろに組合せて支給され、90%に当る大部分の受給者は正常な給付だけを受給する。このグループは受給期間が短かく259日で、支給額も低くて482ドル（年間）であった。このグループに次いで規模が大きいのは全体の7%を占めており、正常な給付と補足的な給付の双方を受給するグループで、このグループの受給期間は276日で、支給額は2,340ドルであった。給付を受給した疾病は、15種類の主要な疾患に大別される。最も多い3種類は血液・循環器、消化器、およびひふ・皮下組織の疾患で、災害、中毒および暴行によるグループも少なくない。もっとも、女子の場合には若干状況が異なり、妊娠と分娩の例が多く、1,400人の女子がこれらの理由により平均109日間給付を受給し、支給額の平均は937ドルであった（1日当りの最高は12.69ドル）。

受給者の職種別では、工場の熟練工、作業グループの班長、工場の補助者と見習工、および保線などの熟練工の4グループがそれぞれの若干ずつ増えていた。とくに多いのは工場の熟練工、制動手・手荷物乗務員・転轍手、および事務係職員のグループで、これらは全受給者の約半数を占めていた。

Unemployment and Sickness Beneficiaries under the RUIA in 1973 - 74, The RRB Quarterly Review, January - March 1975, pp. 5 - 15.

